

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
小 学 部	<p>【学校目標】</p> <p>1) 学習指導の充実</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 「自分の気持ちを表出する」をめざし、児童に心地よい学習を模索する。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	<p>重複障がいの評価基準、評価方法について試行錯誤されているのがよく分かる。点数で評価することが難しい重複障がいの児童生徒の学びをどう評価し、その力を伸ばす支援をどのように行っているかを広く発信して欲しい。</p>
		<p>① 全児童の授業中のエピソードの記録から、表出の増減や変容を3場面以上確認する。</p>	<p>① 全児童18名の授業中の表出の増減や変容を3場面以上確認し共有することができた。</p>		
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>①-1 主に自立活動の時間に関する指導について、担任する児童の外部専門家等によるコンサルテーションや指導を受けたり協議をしたりする。</p> <p>①-2 専門家との協議により実態把握や指導の視点を見直し、児童の学習場面でのエピソードを記録し、児童にとって楽しく心身共に心地よい授業を模索する。</p> <p>①-3 全児童の表出のエピソードを、年に3回以上学部内で共有・記録する。</p>	

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
<p>【学校目標】</p> <p>2) 学習指導の充実</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 生徒の中心的課題を捉え、PDCAサイクルに基づき、自立活動の指導を実践する。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
	<p>① 個別の指導計画において、2・3学期の「自立活動」の目標で「十分達した」「達した」という評価が80%以上となる。</p>	<p>① 個別の指導計画において、中学部生徒11名の2・3学期の「自立活動」の目標で「十分達した」「達した」という評価が93%であった。（「十分達した」44%「達した」49%）</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>(所見)</p> <p>自立活動実践シートを活用して自立活動の指導目標を設定し、ケース会で担任や担当教員間で確認したことで、目標や指導の意図の共通理解につながった。社会人講師を積極的に活用し、身体の動きや手の活動等への助言を受け、担当教員間で情報共有を図り、授業に活かすことができた。事例検討は担当者間で行う方が意見が出しやすく、学部会では意見が出しづらい面もあったが、学部会を活用した指導事例報告では、ビデオ映像を活用したことにより生徒の様子や指導方法をわかりやすく共有することができた。</p>		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①-1 中学部全生徒について、目標等を検討するケース会を実施する。</p>	<p>①-1 中学部全生徒について自立活動実践シートをもとにたてた2・3学期個別の指導計画のケース会を8～9月に、中間評価や追加目標を検討するケース会を12月に実施した。</p>			
<p>①-2 中学部全生徒について、学部教員間で自立活動の指導事例検討や教材共有等を行う。</p>	<p>①-2 学部会では各学習グループから1名ずつ計4名の自立活動の指導事例報告を行い、他の生徒はケース会等を活用して指導や教材等についての情報共有を図った。</p>				
<p>①-3 ひのみね医療療育センターリハビリテーション課との連絡会、社会人講師来校等による専門家との連携で得られた情報の共有を図り、授業に活かす。</p>	<p>①-3 社会人講師の指導をPT4名、OT1名、心理リハビリテーションSV6名が受け、担当教員間で記録やビデオ等を活用して情報の共有を図り、授業に活かした。</p>				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
<b>【学校目標】</b> 2) 学習指導の充実  <b>【下位組織レベル】</b> ① キャリア意識の向上とともに実践力を高め、進路指導の充実を図る。	① 学部内アンケートにおいて、「進路意識が向上した・実践力が高まった」と回答した教員が80%以上となる。	① 年度末に実施した学部内アンケートにおいて、「進路意識が向上した・実践力が高まった」の項目に、「非常に実感している」「やや実感している」と学部教員の100%から回答を得ることができた。	(評定)  A	校内実習や就業体験など、生徒にとって進路の目標が明確になるようなキャリア教育を引き続きしていただきたい。また、卒業生の保護者から話を聞く機会を持つとよい。 農福連携で協力できることを模索できればと考えている。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
	①-1 校内実習期間や報告会など、学部全体で取り組む機会を年2回以上設定する。	①-1 6月に校内実習期間を設定し、コースごとに活動計画を立てて実施した。11月にはローソン出張授業を実施し、接客や販売について学部全体で取り組んだ。12月には就業体験報告会を行い、それぞれの成果を発表した。	担任・保護者間の連携やケース会の実施など進路担当とともに、生徒一人一人に応じた就業体験の実施や振り返りを行うことができた。 校内実習やローソン出張授業などに学部全体で取り組むことで、それぞれの進路目標が明確になり、全体の進路意識の向上を図ることができた。アンケートからも高評価を得ることができている。	
	①-2 月1回、学習グループ内で支援方法の見直しを行い、授業改善を図る。	①-2 学習グループ内で、卒業後に必要な力を身につけるための授業を計画し、月1回以上の割合で話し合い、授業改善を行った。	1・3コースについては、生活の見通しを立て、生徒自らが進路について考え、自信を持って行動できる力が身につくような指導、4コースについては、集団活動の中で安定して過ごし、自己を発揮して自己肯定感を高められるような指導を取り入れることで、より豊かな進路指導につながったと思われる。	
	①-3 就業体験ごとに毎回振り返りを実施する。	①-3 各生徒とも就業体験毎に事前・事後学習を行った。実習を振り返り、進路選択につなげることができた。		
①-4 学期に1回以上、進路に関する情報交換会を学部内で実施する。	①-4 学期に1回以上、年間5回(5.7.9.11.2月)、学部全体で進路に関する情報交換の場を設定し、情報共有を行った。学習グループ内においても毎学期ケース会を実施し、進路指導について情報共有を行った。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
<b>【学校目標】</b> 1) 安心・安全な学校づくり  <b>【下位組織レベル】</b> ① 災害時における安全な避難態勢の整備を行う。	① 防災意識を高め、防災計画に基づいた訓練や研修を、関係機関や家庭と連携して計画し、計画通り実施する。	① 関係機関や家庭と連携して研修を計画し、予定した訓練や研修を全て計画通り実施することができた。	(評定)  A	発災時の備えについては、保護者と確認しながら、防災バックや備蓄品について整備していくことが必要。 災害の種類により対応が違ってくるので、いろいろなシュミレーションを行うなど検討しておくが良い。 停電時の対応について自治体や市町村等と協力体制を整えたり、地域の給電場所についてマップなどの作成につながれば良いと思う。	安全な避難態勢の整備のために、スロープが使用できない時の対応について、新年度の早い時期に引継ぎや確認を行ったり、演習や訓練を全員の教員で実施したりすることが必要である。 R6年度にエアーストレッチャーを1台備えることができたため、演習(訓練)を計画する。 今後も車いすを担ぎあげることが難しい児童生徒のハード面での整備を、可能なことから検討していきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	①-1 「災害安全」に関する訓練を5回、「生活安全」に関する訓練を1回計画し、10月までに実施する。	①-1 火災避難訓練を2回、地震津波避難訓練を1回、風水害避難訓練を1回、新規赴任者を対象に消火訓練を1回、不審者対応訓練を1回実施した。10月までに実施できた。	年度当初の防災研修をWEB研修として実施し、確実に全員に受講してもらえたことは良かった。校内防災研修で全員が車いす等での避難体験をしたことは特に好評で、防災意識をさらに高めることができた。また、訓練で出た課題については、改善して全校に周知することができた。		
	①-2 年度当初に、全教員対象に本校の防災に関するWEB研修を計画し、全教員が研修できるようにする。	①-2 4月17日から5月2日の間にWEB研修を実施した。研修内容に関するアンケートを実施し、内容理解を深めた。研修期間後も途中復帰等で未実施の教員にはWEB研修受講を促し全教員が研修できた。			
	①-3 スロープが使用できない時の2階への避難について、全教員が体験できる形で計画する。	①-3 各学部から1名、想定した児童生徒の階段を使った避難を、車いすに重りを乗せて実施した。他に車いすや担架を使って教員が乗り平行避難も実施し、運ぶ側、運ばれる側の体験を行い、感想を共有することで発災時の備えに繋げることができた。			
	①-4 保護者と連携し、保護者の希望を取り入れて、夏季休業中にPTA防災研修として計画、実施する。	①-3 保護者のニーズから防災バッグの中身についての情報共有を行った。教員は発災時の避難所設営のためのテント立てや発電機の始動などを体験した。また、蓄電池の使い方について、全体で共有することができた。			
	①-5 他課と連携し、カードの書式を検討して立案し、次年度からの活用ができるようにする。	①-5 保健環境課と協働して検討し、個人カードと防災カードを統合し、防災バッグに入れることとした。次年度から活用できるよう準備を整えることができた。			
①-6 避難訓練に係る避難経路など、5月から防災計画や危機管理マニュアルから抜粋して掲示板に掲載し、周知する。	①-6 「学校安全の日」に避難訓練に関する内容などを再掲し、意識の向上に努めた。マニュアル以外にも非常時の備えなどについて掲載し、安全意識の向上を図ることができた。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
<p>【学校目標】</p> <p>2) 学習指導の充実</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 学習指導要領に即した学習評価を推進する。</p>	<p>① 各学部の準ずる教育課程(1・2コース)の「評価に関する規定」を来年度改定できるように見直し、作成する。</p>	<p>① 学習指導要領や各校種の様式を参考に、各学部の準ずる教育課程(1・2コース)の「評価に関する規定」を見直し、観点別評価を明確にするとともに、学部間の規準を揃えて、来年度の運用に向けて整えることができた。</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>(所見)</p> <p>観点別評価についての規定の見直しと並行して通知表の様式も見直し、新たにしました。</p> <p>小中学部には準ずる教育課程で学ぶ児童生徒は在籍していないが、学校として、現行の学習指導要領に即した評価規定が定められたことで学習指導の基盤ができたと考える。また、夏期休業中にまとまった時間をとったことで、課員全員で検討することができ、所属学部と他学部の評価のつながりも意識することができた。</p>	<p>次年度も児童生徒の実態に合った授業づくりや評価規準・評価方法を検討していただきたい。</p> <p>重複障がいの評価基準や評価方法は試行錯誤されていることはよくわかる。点数で評価することが難しい重複障がいの児童生徒をどう評価し、その力を伸ばす支援がどのようなものとなるかを広く発信していただきたい。</p> <p>次年度、準ずる教育課程に児童生徒が在籍するのは高等部のみであるが、各教科担任への周知と理解促進をスムーズに行うことが課題となる。年度初めのケース会や学部会等を利用して周知するとともに、観点別評価の考え方や方法についての研修も必要と考える。</p> <p>また、本校の9割以上である重複障がいの児童生徒の学習評価については、今回改訂した評価規定を踏まえながら、児童生徒の実態に合った授業づくりや評価規準・評価方法を試行錯誤する必要がある。さまざまな研究授業の機会を生かし、学部全体・学校全体での検討や研究を重ねるサイクルを作りたい。</p>	
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①-1 各学部の教務主任を中心に、参考資料等を集め、原案を作成する。</p>	<p>①-1 1学期～夏休み前半で小学校・中学校・高校の資料等を集め、それらをもとに原案を作成した。</p>			
	<p>①-2 教務課全員で、それぞれの原案を検討し、改訂版を作成する。</p>	<p>①-2 夏休み中に教務課会を行い、全員で原案を検討し学部間での書き方や点数の幅を揃え、改訂版を作成した。</p>			
	<p>①-3 教育課程検討委員会、個別の指導計画検討委員会に改定案を出し、承認を得る。</p>	<p>①-3 第2回個別の教育支援計画検討委員会にて改定案を提出し、集約した意見をもとに様式を整え、第3回個別の教育支援計画検討委員会にて承認を得た。</p>			
<p>①-4 承認された改訂版を職員会議等で周知する。</p>	<p>①-4 承認された改訂版を職員会議で周知した。</p>				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見		
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価			
<p>【学校目標】</p> <p>5) 教職員の専門性の維持向上と地域への発信</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 自立活動実践シートのPDCAサイクルに基づきながら、外部専門家の活用とチームで取り組む自立活動の指導を推進することを通して、教職員の専門性を高める。</p>	① 自立活動の目標設定の手続きを理解することができた、概ね理解できたと100%の教員が回答する。	① 自立活動の目標設定の手続きを理解することができた、概ね理解できたと89%の教員が回答した。	(評定)  B	今年度からリフレクションミーティングと改名された会をミーティングのねらいを明確にし、検討しながら児童生徒の実態に応じた指導につなげてほしい。 自立活動実践シート作成のマニュアル等も適宜改良しながら取り組んで欲しい。	目標設定の手続きが理解しがたい理由は、手続きの煩雑さが考えられる。改良した手続きを継続して活用していくことで理解の定着を図りたい。また、年度途中から勤務する教員や新規赴任者への研修を工夫しながら、継続的な取り組みを目指したい。その他、目標設定の精度を高めていく研修も企画していきたい。 今年度「リフレクションミーティングは実施しにくかったので改善した方がよい」という意見が5件あった。実施しやすいパターンを複数提示したり、進行マニュアルを作成し、ミーティングのねらいを明確にする工夫が必要である。 また、外部専門家の活用は多かったが、手の操作に関する作業療法士の活用は少なかつたため、手の働きに関する外部専門家の活用を促すために社会人講師の話を聴く機会を設けたり、活用の良さを伝えたりする必要がある。	
	② 自立活動ミニ授業検討会や外部専門家の活用を通して、話し合ったことを授業に活用し授業を改善することができたと80%の教員が回答する。	② リフレクションミーティング（自立活動ミニ授業検討会を改名）や外部専門家の活用を通して、話し合ったことを授業に活用し授業を改善することができたと92%の教員が回答した。				(所見) 研修の機会を設定したり、目標設定の手続きに関する資料を作成したりしながら、自立活動実践シートを全教員が再検討したことが9割近くの教員の理解を促すことにつながったと考える。 授業改善に関するリフレクションミーティングや外部専門家の活用は、授業を改善することにつながった。
	活動計画	活動計画の実施状況				
	①-1 自立活動の目標設定の手続きについて掲示板等を活用した研修を実施する。	①-1 7月に2回掲示板に資料を添付し、自己研修を実施した。				
	①-2 目標設定のポイントを伝えながら全児童生徒の自立活動実践シートを再検討する研修を実施する。	①-2 7～8月に目標設定のポイント等を3回に分けて伝えた後、各グループで全児童生徒について自立活動実践シートを再検討した。				
	①-3 2・3学期の個別の指導計画ケース会において目標設定の根拠を説明する機会を設ける。	①-3 2・3学期の自立活動の目標を立てた理由をケース会で説明するよう全担任に伝え、機会を設定した。				
	②-1 自立活動ミニ授業検討会の進め方を示し、全教員が自主的に取り組めるよう研修を支援する。	②-1 リフレクションミーティングの目的や方法等を示した。				
②-2 ひのみね医療療育センターリハビリテーション課との連絡会を1学期と3学期に企画し、社会人講師の来校指導を60回以上実施する。	②-2 リハビリテーション課との連絡会を年2回実施することができた。社会人講師の来校指導を74回実施した。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
人権進路課	<p>【学校目標】</p> <p>1) 安心・安全な学校づくり</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 人権教育の視点を学校全体で確認し、一人ひとりを大切にする教育活動を展開する。</p>	<p>① 自分を大切にする活動を年間5回以上企画する。</p>	<p>① 学期に1回「こころの学習」として高等部の生徒にスクールカウンセラーによる授業を実施した。人権研修では障がい者差別について取り上げ講演会を行った。薬物乱用防止教室やスマホ安全教室では自分の身を守るための学習を行った。</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">A</p> <p>(所見)</p> <p>スクールカウンセラーと連携した「こころの学習」では、自分と考え方が違う友達がいること等について理解を深めることができた。PTA人権研修会の講演に生徒も参加して、様々な困難を乗り越えてきた講師の話聞くことにより、「これからいろいろなことに挑戦したい」など意識の変容が見られた生徒もいた。薬物乱用防止教室やスマホ安全教室においても自分には関係ないではなく、身近なことであることを感じ、「支え合って生きていきたい」など自他を大切に一人ひとりの思いや言動につながった。</p>	<p>次年度も引き続き、児童生徒の意識の変容がみられるような機会を設定していただきたい。スマホの使用についてトラブルに巻き込まれないような指導も継続して欲しい。</p> <p>安心・安全の基本的な人権が守られ、自分の身を守ることや周りの人を大切にするのできる児童生徒を育てていきたい。そのために、今年度同様、外部の機関と協力した研修を行い、いじめ防止一斉授業のように自分のことを考えたり、友達のことを知ったりする活動を続けていきたい。</p>
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①-1 人権研修、薬物乱用防止教室やスマホ安全教室など自分を守る学びの場を提供する。</p>	<p>①-1 9月にPTA人権研修で障がい者問題の当事者である久保修氏の講演、6月に薬物乱用防止教室、8月にスマホ安全教室を実施した。</p>			
	<p>①-2 いじめ防止子ども委員会に児童生徒全員が所属していることを教員が知り、児童生徒が挨拶運動や校内放送に積極的に参加できるように呼びかけ等を行う。</p>	<p>①-2 いじめ防止一斉学習を行い、「みんなに伝えよう～好きなこと・笑顔になる瞬間」について考える機会をもった。校内放送で発表したことを、ポスター掲示し、多くの人に見てもらった。</p>			
<p>①-3 スクールカウンセラーと連携し、自分や周りの人を大切にするヒント等を発信する。</p>	<p>①-3 スクールカウンセラー便りを5回発行した。ストレスとは何かやその対応についてなど身近な内容について取り上げ、保護者と児童生徒に発信し、校内にも掲示した。また、「こころの学習」では、ふわふわ言葉やチクチク言葉についての授業を行い、友達との意見の違いを感じ、友達が嫌だと思ふこともあることを学習した。</p>				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
人 権 進 路 課	<p>【学校目標】</p> <p>4) 家庭・地域・学校が一体で取り組む教育の推進</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 生徒に応じた進路選択へつなげていく。</p>	<p>① 児童生徒、保護者のニーズに応じた進路選択に向けて、関係機関との連携、情報提供等を年間通して行う。</p>	<p>① 生徒の実態や進路希望等を担任と共有して進路開拓を行い、見学や実習につなげた。</p>	(評定)	<p>卒業後の進路先について、新しい施設等を開拓し、保護者に情報提供できるようにしていただきたい。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもたちの進路先がものすごく少ない。進路開拓に努めていただいたり、また新しい制度の情報など、保護者に提供いただきたい。</p> <p>本校の生徒は卒業後、2～3カ所の施設を併用することが多い。本人・保護者のニーズを面談でしっかりと聞き取り施設の案内ができるようにしたい。</p> <p>また、進路について質問があった際に、全教員が回答できるように進路に関する研修を行い、教員の専門性を高めたり、担任と連携しながら進路選択の支援ができる体制を整えていきたい。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
	①-1 進路アンケートを実施し、保護者のニーズに合った施設見学を行ったり、進路情報を人権進路通信「はなみずき」で発信をする。	①-1 進路アンケートを実施し、希望のあった施設の見学を実施することができた。施設についての情報を「はなみずき」を通して保護者に発信したり、図書室に進路コーナーを設置し、施設等の情報発信を行った。	①-1 進路アンケートを実施し、希望のあった施設の見学を実施することができた。施設についての情報を「はなみずき」を通して保護者に発信したり、図書室に進路コーナーを設置し、施設等の情報発信を行った。	<p>進路アンケートを実施し、小学部の保護者からも進路について悩んでいる、施設について何も分からないなど進路に関する不安感を把握することができた。</p> <p>PTA施設見学においては、参加者は5名であったが、施設の方から詳しく話を聞くことができ、進路選択の一助となった。</p> <p>本校の児童生徒は県内の様々な地域に居住しているため、今後も本人や保護者のニーズを把握し、適切な進路選択ができるよう、見学先や実習先を調整していきたい。</p>	
	①-2 進路指導担当が高等部生徒保護者との面談の機会を年間2回以上持つ。	①-2 登下校送迎時や参観日、保護者懇談、就業体験の反省会等において、ほとんどの保護者と2回以上話をする機会を持つことができ、円滑に進路指導を行うことができた。	①-2 登下校送迎時や参観日、保護者懇談、就業体験の反省会等において、ほとんどの保護者と2回以上話をする機会を持つことができ、円滑に進路指導を行うことができた。		
①-3 小学部段階から進路について、保護者や担任にも考えてもらうことができるような情報発信をしたり、進路先の開拓等を行う。	①-3 小学部段階から進路について、保護者や担任にも考えてもらうことができるような情報発信をしたり、進路先の開拓等を行う。	①-3 進路先の開拓として、最近利用をしていなかった施設や新しい施設等10カ所以上の施設を訪問して情報を収集し、「はなみずき」で発信した。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった



# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
特別活動課	<p>【学校目標】</p> <p>4) 家庭・地域・学校一体で取り組む教育の推進</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 児童生徒の実体験の機会を増やす。</p>	<p>① 地域や県主催のイベント等への参加及び企画を3つ以上実施する。</p>	<p>① 県庁9階特設掲示板の作品展示や「きらめきアート展」の参加及び、やまなみ珈琲小松島店での「ひのみねからの発信」で作品展を企画した。</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>ユニバーサル公演事業申請やその他のアート、音楽、スポーツなどのワークショップなどで普段体験できないことが体験できるといい。地域の方や近隣の学校と一緒に合同作品に取り組んではどうか。</p> <p>児童生徒の実態に応じた参加が可能な作品展の出展や体験的な事業を今後も取り入れられるよう検討をして行く必要がある。芸術家派遣事業や学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業(ユニバーサル公演事業)など、外部事業の実施ができるよう継続して申請していきたい。</p> <p>「ひのみねからの発信」ではアンケート回答数が少なかったため、アンケートをQRコード等に変更するなどレスポンスがあるように改善し、児童生徒の意欲向上につながるようにしたい。</p>
	活動計画	活動計画の実施状況	<p>(所見)</p> <p>作品展は、児童生徒の活動の成果を表現する方法として非常に有効である。地域や県が主催するイベント等において、作品展を数多く実施できた。また、実際に作品展を見学に行き、多くの作品にふれることで、学習に対する意欲の向上や、経験の幅の広がりにつながった。</p> <p>児童生徒による表現の機会としての作品展は、本校の理解啓発にもつながっている。</p>		
	<p>①-1 作品展や演奏会などを精選して企画し、本校児童生徒の実態に即した参加方法を検討する。</p>	<p>①-1 参加実績のある事業には、例年通り参加した。芸術家派遣事業に申請したが、採用に至らなかった。次年度の学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業(ユニバーサル公演事業)に申請した。</p>			
	<p>①-2 参加を呼びかけて意見を集約し、参加の仕方や日程等の調整をする。</p>	<p>①-2 各事業において出展先や教職員と連絡を密にとって参加方法や出展作品の調整、日程調整等を行った。</p>			
<p>①-3 参加及び企画するイベントの案内や取り組み内容、活動結果等をホームページにて発信する。</p>	<p>①-3 各事業からの案内チラシの配布や回覧、掲示を行った。実施前後には、ホームページで活動の様子等を発信した。</p>				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
支 援 課	<b>【学校目標】</b> 1) 教職員の専門性の維持向上と地域への発信  <b>【下位組織レベル】</b> ① 校内外において、PBS(ポジティブ行動支援)を広げる取組を行う。	① PBSの基本的な考えについて情報提供を行い、各学部毎の取組事例を周知する。	① PBSに関する情報提供を行い、校内での取組について周知した。	(評定)  B	巡回相談は、学校と校外での活動でとても忙しいと思うが、これからも地域支援を継続していただきたい。 校内の専門性の向上にも期待する。  県下に広がっているPBSの理念に基づく教育活動が本校でも行われているということ、一人一人が認識し、専門性の維持向上を図っていききたい。その際、日々の困り感や迷いに寄り添えるような校内支援を心がけ、PBSが教員に定着するように「ひのみねPBSの日」の設定など検討していききたい。 巡回相談については、地域のセンター的機能を発揮することを継続していききたい。本校は、肢体不自由の特別支援学校であるが、様々な支援を必要とする対象児の相談も受けられる体制であることを、本校で開催する研修会等を通じて周知していききたい。また、地域の相談員とつながる機会を増やし、校種を問わず相談活動が行われるようになればと考える。
		② 巡回相談時の支援において、PBSの理念に基づいた相談活動を訪問箇所80%以上の保育園や幼稚園、小学校、中学校等で実施する。	② すべての訪問先でPBSの理念を持って相談活動を実施することができた。	(所見) 校内で日々行われているPBSな教育活動を、校内で再認識したいと考えた。課内で取組事例を確認し、個々に伝えることができた。また、PBSの実践について個々に確認できるよう、情報提供や取組紹介を行うことができた。 校外においては、訪問先の保育所等でPBSの視点からの関わりや支援について助言することができた。また、複数回訪問できたことで、相談後の経過についての報告を受け、更に次へつながるような助言を行うことができた。	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 校内掲示板等を活用し、PBSについての情報や取組事例を提供する。	①-1 校内掲示板にて情報、取組の紹介を行った。		
		①-2 PBSに関する相談や質問等について話をする機会を持つ。	①-2 校内での教員等からの相談や質問についてPBSの視点から助言を3事例行うことができた。		
		②-1 総合教育センターからの案内、リーフレット等を活用する。	②-1 巡回相談員の活動を含む訪問先で配布し、リーフレットをもとにPBSについて説明した。		
②-2 相談内容に応じてPBSの視点からの支援について助言を行う。	②-2 相談者の良いところ、望ましい活動のフィードバックをしながら相談を進めることで、PBSの視点での関わりを導くことができた。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見		
	評価指標	評価指標の達成度		総合評価		
保 健 環 境 課	【学校目標】  4) 家庭・地域・学校一体で取り組む教育の推進  【下位組織レベル】  ① 家庭・地域・学校一体でエシカルアクション事業に取り組み、さらなる推進を図る。	① 校内での節水節電、紙の再利用、ペットボトルキャップ回収等の啓発活動を定期的に行い、さらなる推進を図る。	① 校内での節水節電、紙の使用量や再利用については毎月、ペットボトルキャップの回収は学期に1回、校内での啓発活動を定期的に行った。また、ポスターやポップを作成し掲示した。	(評定)  A  (所見) 校内での啓発活動は昨年度よりも計画的に定期的実施することができた。 エシカル消費教育や啓発活動を学校全体で計画的に取り組むことに課題を残すも、各クラスやグループ等それぞれ活動することができた。	エシカル活動に賛同し、ペットボトルキャップを持参されている地域の方を学校前でよく見かける。次年度も継続した取り組みを行っていただきたい。そして、児童生徒が主体的に充実した活動ができるように啓発活動なども検討していただきたい。	
		② ユネスコ委員会を中心に各学部とも連携し、学校全体でエシカル消費教育や啓発活動に取り組む。	② 高等部と連携し、エシカル消費教育や啓発活動の事前学習などに取り組んだ。また各学部でも、啓発活動のポスターや書き損じハガキのポスト作り、地域での啓発活動に取り組むことができた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 電気や水、紙の使用量について記録し、グラフ化して校内掲示板に掲示する。	①-1 電気や水、紙の使用量について記録し、グラフ化して校内掲示板に毎月掲示した。			
		①-2 毎月、30日をエシカルの日とし、電気、水、紙の使用量と共に昨年度比も周知し、節電節水、紙の再利用などについて呼びかける。	①-2 毎月、30日をエシカルの日とし、電気、水、紙の使用量と共に昨年度比も周知し、節電節水、紙の再利用などについて呼びかけたことで年間で使用量が減少した。			
		①-3 学期に1回参観日にペットボトルキャップ回収日を設定し、家庭と連携して回収活動に取り組むと共に、ユネスコ委員会を中心に、エシカル消費啓発のチラシ配布や呼びかけを行う。	①-3 学期に1回参観日にペットボトルキャップ回収日を設定し、家庭と連携して回収活動に取り組んだ。ユネスコ委員で、エシカル消費啓発のチラシ配布や呼びかけを行った。			
		②-1 高等部を中心にエシカル消費教育、環境教育を授業に取り入れる。	②-1 高等部を中心にエシカル消費教育、環境教育を授業に取り入れることができた。			
		②-2 啓発活動のポスターやチラシづくり、回収活動に協力してくれた方に渡す感謝のカードやプレゼントを作る。	②-2 啓発活動のポスター・節水節電のポップや書き損じハガキを入れるポスト、回収活動に協力してくれた方に渡す感謝のカードを作成した。			
②-3 啓発活動では事前に打ち合わせを行うと共に、事前に児童生徒がポスターを作成し、掲示してもらう。	②-3 啓発活動では地域や校内で事前に打ち合わせを行い、スムーズに活動できるようにしたり、事前にポスターを掲示してもらったりした。					
②-4 地域での啓発活動を行い、事前学習や事後学習を行う。	②-4 地域での啓発活動を行い、事前学習や事後学習を各クラスやグループで行った。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

# 令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指標の達成度	総合評価		
<b>【学校目標】</b> 3) GIGAスクール構想の更なる展開  <b>【下位組織レベル】</b> ① ICT機器への理解を深め、児童生徒一人一人の実態に応じた活用ができる。	<b>評価指標</b> ① ICT機器の活用に向け、ニーズに応じた研修を2回行い、実践の様子を発信することができる。	① ニーズに応じた、情報セキュリティやアプリの利用について実践的な研修ができた。Keynoteなどの活用事例を研修に参加できなかった教員にも共有し、活用を促した。	(評定)  B	情報化社会への対応として、スマホの安全な使用についての学習でトラブルや犯罪を未然に防ぐ取り組みも大切。次年度も引き続き児童生徒の実態に応じた1人1台端末の活用を進めていきたい。	DXを推進するには、教員のICT・ATへの理解を深めることが大切であると考えている。本年度はGIGAサポーターと協力して、ニーズに応じた研修を実施できた。次年度もニーズに応じた研修を行うと共に、ステップアップした内容に取り組むことで、教育活動のDX化を更に進めていきたい。ホームページ等を活用した、活用事例の蓄積にも取り組んでいきたい。
	② ICTやATを活用した教材等のソリューションを提供する。	② ICTの活用に関する教員からの相談について、一緒に解決方法を模索できた。自宅からの授業への参加方法について、Teamsで学級のチームを作り、リモートで参加できるよう準備をすることができた。	(所見) 端末ごとに細かなところで違いがあり、困りごとが散在した。困りごとに対して、情報収集し、課内で解決方法を模索し、学部会等を使って情報の共有や解決方法の提示を行った。教員がICT機器への理解を深めることで、児童生徒がリモートで授業に参加することができたり、1人1台端末をさらに有効活用することができた。また、DropTapなどのコミュニケーション支援アプリを活用し、学校行事の司会をするなど活躍する場が広がり、生徒の自信に繋がった。		
	<b>活動計画</b> ①-1 GIGAサポーター等の制度を活用して研修を行い、ICT機器への理解を深める。	①-1 GIGAサポーターと研修内容を検討し、実際に機器やアプリを操作しながら研修を行うことで理解を深めることができた。			
	①-2 学校ホームページを活用し、各学習グループでの取り組みを各学期1回以上発信する。	①-2 各学期ごとに、ICT機器の活用例や学習活動で制作したものを学校ホームページで発信した。			
	②-1 ICT・AT活用を通じた支援のあり方について研修(OJTを含む)を実施する。	②-1 アンケートシステムを活用し、職員のニーズに応じた内容の研修を行うことができた。			
	②-2 効果的な授業内容・展開ができるようにスイッチ等の活用例やアプリケーションについて紹介をする。	②-2 GIGAサポーターと連携して、keynote(図の挿入、手描きイラスト、アニメーション等)やMicrosoft Teams(チームの作成、チャット機能、ファイルの共有等)の基本的な使い方について研修を行った。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった